

中山道 浦和宿を 歩く

約3.4km

JR浦和駅を起点に、
江戸時代30余りの大名による参勤交代が行き交った
中山道浦和宿を散策します。
街道沿いにひっそりと残る史跡や寺社、
新しい浦和の街並みなどを探訪します。
初版発行日…平成19年(2007)3月
編集・発行…浦和区文化の小径づくり推進委員会



浦和区文化の小径づくり推進委員による
ガイドと浦和の風景が楽しめます!



※YouTubeにリンクします。
※通信料は自己負担となります。

令和4年(2022)9月改訂

MAP 1 「さいたま市の花」の名がつく
さくら草通り

全国で9番目の「歩行者専用ショッピングモール」として昭和57年(1982)にできました。通りの名称は公募により決定しました。季節感あふれる樹木やブロンズ像などが置かれ、買い物や散策する市民で賑わっています。



▲さくら草通り

MAP 3 下にい下に。大名行列も一休み
浦和宿本陣跡



▲木曾街道六十九次のうち浦和宿の版画(英泉画)
(浦和宿)

江戸時代に中山道が整備され、浦和宿は日本橋を出て3番目の宿場になりました。本陣1軒、脇本陣3軒、旅籠15軒、家数200軒余り、宿の長さ約2キロ、街並み約1キロ、1,230人ほどが暮らしていました。



▲浦和宿本陣跡にある明治天皇行在所の石碑

【本陣跡】

本陣には約1,200坪の敷地に、約222坪の母屋、宿場の重要な施設である問屋場・高札場などがあり、代々星野権兵衛家が勤めていました。

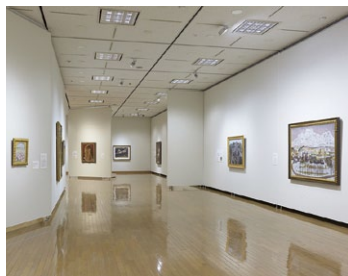
加賀前田家が宿泊し、皇女和宮も休息しています。現在は明治天皇氷川神社行幸の折、行在所となった石碑のある仲町公園となっています。

MAP 2 鎌倉文士に
浦和絵描きの原点
うらわ美術館

昭和初期の耕地整理と鉄道の電化により、浦和はより住みやすい住宅地へと変貌し、関東大震災の影響も加わり、多くの文化人が移り住み活躍し「鎌倉文士に浦和絵描き」という言葉が生まれました。

うらわ美術館は、「地域ゆかりの作家」と「本をめぐるアート」をコレクションの柱に、平成12年(2000)春に誕生した都市型美術館です。

夕方5時(金土は夜8時)まで開館しており、会社帰りや買い物ついでに、気軽にアートの世界を楽しむことができます。月曜休館。



▲うらわ美術館内の様子

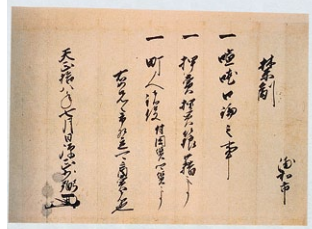
MAP 4 月六回、市の賑わい
二・七市場跡

浦和の市は、室町時代から始まったとされ、2と7のつく日は、浦和宿の上町・中町・下町の順に中山道沿いで商いが行われ、昭和の初めまで続いています。

この場所は、市神の祭られた石祠、定杭、開催を示した天正18年(1590)の古文書が残る貴重な史跡です。市は周辺農村の生産物資の売却の機会であると同時に、生活物資購入の機会でもありました。



▲二・七市場跡



▲浦和市の古文書(禁制) 喧嘩口論や押売などを禁止したもの

MAP 5 鷹狩りの御殿も緑
常盤公園

慶長年間、徳川家康が民情巡察を兼ねた鷹狩りの際、休息、宿泊のため、この地に浦和御殿を設けました。

その後、幕府直轄地の「御林」となり、明治26年(1893)には、浦和地方裁判所・検察庁が置かれ、昭和51年(1976)に常盤公園となり、令和4年(2022)には再整備されました。「赤レンガ堀」には裁判所当時の面影が偲ばれます。

毎年11月、「中山道浦和宿二七の市」が開催されます。



▲常盤公園の様子
▲市場通りにある野菜売りの女性像



MAP 6 浦和宿要の古刹
玉蔵院

真言宗豊山派の古刹で、創建は平安時代と伝えられ、戦国時代に印融上人が盛んにしました。

山門は江戸時代後期の優れた建築。庫裏前の「守護待不入」の石杭は、天正期の寺の力を示す歴史的記念碑です。

地藏堂の木造地藏菩薩立像は、平安時代後期の作で秘仏です。

▼玉蔵院の山門



MAP 7 満月にウサギの御座す
調神社

平安時代以前から続くといわれる浦和屈指の古社で、『延喜式神名帳』にも記載されています。

調の文字は、御調物を納める倉庫から発展した神社ということで、この文字をあてられた説が有力です。

また、調が月と同じ読みから、月待信仰に結びつき、社頭、社殿、稲荷社(旧本殿)などに「うさぎ」の彫刻等があります。

初詣、お宮参り、夏越の大祓い、七五三、十二日まちなで親しまれています。

境内林は、樹齢数百年といわれる榎、棕、銀杏等の大木により、大切な緑の空間となっています。

稲荷社(旧本殿)は享保18年(1733)に造営されたことが内部に残された木札から分かっています。平成25年から29年度にかけて元の姿に修復されました。正面、脇障子の兎の彫刻など見事なものです。



▲調神社

column

埼玉会館～文化と憩いの場～

旧埼玉会館は、摂政裕仁親王(昭和天皇)のご成婚を記念して、岡田信一郎の設計により大正11年(1926)に建てられました。

現在の埼玉会館は、モダニズム建築の旗手といわれた前川國男によって設計され、昭和41年(1966)4月18日竣工されました。



▲旧埼玉会館(さいたま市提供)

うなぎのまち

江戸時代、浦和周辺には沼地が多く、川魚が多く生息する水郷地帯で、魚釣りを楽しむ行楽客で賑わっていました。その行楽の人々に沼地でとれたうなぎを出したのが始まりで、味の良いたうなぎが評判になり、中山道を行き来する人たちがわざわざ足を運んだということです。



表紙写真 1 調神社の稲荷社(旧本殿) 2 調神社の兎像 3 桜草自生地の風景(高田誠原画)と武者群像

